

ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	保育科 准教授 竹 中 麻 美 子 （たけなか まみこ） TAKENAKA Mamiko
所属	保 育 科
学位	学士（教養）（国際基督教大学）
資格・免許	該当なし
学歴・職歴	<学歴> 国際基督教大学教養学部語学科 卒業 （学士（教養）） ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ （Goldsmiths, University of London） ドラマ・アンド・シアターアーツ専攻 ロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ・カレッジ （Royal Holloway, University of London） ドラマ、シアター・アンド・メディア・アーツ専攻 <職歴> 1996 年 12 月 株式会社エフエム甲府 制作部（2001 年 3 月まで） 2002 年 4 月 山梨学院短期大学 兼任講師（2007 年 3 月まで） 2004 年 9 月 山梨学院短期大学 事務局課員（2009 年 3 月まで） 2009 年 4 月 山梨学院短期大学保育科 専任講師（2020 年 3 月まで） 2021 年 4 月 山梨学院短期大学保育科 准教授（現在に至る）
担当科目	演劇入門 異文化コミュニケーション 外国語（教職） 家庭問題特論Ⅱ 英語 A 英語 B 基礎演習 卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ
専門分野	舞台芸術 英語コミュニケーション
現在の研究テーマ	異文化コミュニケーションへの興味を深め、外国語学習の意欲を高めるために役立つ学習素材の検討と授業展開の工夫
競争的資金等の研究課題	—
所属学会	日本保育学会 日本保育者養成教育学会 日本英語圏児童文学会 日本シェイクスピア協会 Society for Emblem Studies 日本支部
メッセージ	学生生活は自分のやりたい研究、サークル活動、いろいろなことに思いっきりチャレンジできる時です。失敗を恐れず、自分自身の可能性をたくさん見つけてください。皆さんのさまざまな挑戦を心からサポートし、応援しています。

教育		
2022 年 4 月～2023 年 3 月		
教育方針		様々な価値観、文化的背景を持つ人とのかかわりの中で成長し、グローバル社会で生き抜く力を持つ若者の養成
授業	授業の工夫	<演劇入門> 演劇作品の鑑賞や文学作品の読解・発表を通して、表現力の向上を目指す。ボイストレーニングや演技のレッスンも行い、グループに分かれて作品を実際に演じ、鑑賞し合うことで、作品の時代背景や登場人物の性格、感情などをより深く理解できるよう工夫している。 <異文化コミュニケーション> 留学生や国際交流員、海外在住経験のある方にゲストスピーカーとして様々な国の文化を紹介していただき、学生と直接話をする機会を設けている。学生が国際交流イベントに積極的に参加し、実際に体験する異文化に対する学びを大切にしている。学生からも、「普段接することの少ない外国の方と交流する機会となり、貴重な時間となった」や「英語が下手でも一生懸命伝えようとすれば会話ができること、実行する力が身につきました」などの声を受けた。 <外国語（教職）> 英語を使ってコミュニケーションをとる機会を増やすため、プレゼンテーションや参加型の学びの機会を多く取り入れた。英語絵本の朗読や早口言葉、手遊び、歌遊びなど、楽しみながら英語に触れる教材を多く活用した。 英語特有の発音を身に着けるため、l と r や th、v など日本語にはない音の発音指導に舌を擬人化したキャラクターを取り入れたユニークな指導を試みた。 <英語 A> 英語が苦手、英語は嫌い、という意識を変革することに力を入れている。内容を知りたい、使って楽しい、相手に伝わって面白い、という経験を積むことで、苦手意識を克服し、表現手段としての英語力をつけることを目指している。英語の歌をテキストとして活用することで、等身大の若者の感情を表現する語彙や文化的な違いをより分かりやすく理解できるよう工夫した。 <英語 B> 食物栄養科、保育科、それぞれの学生の興味関心を高めるような教材を取り入れている。それぞれの学生の専門分野について今日的な話題にあふれた素材を新聞、雑誌、メディア等から取り入れ、活用している。 アクティブ・ラーニングの要素も使い（感染予防のため、時間を区切り）、友達との学び合いの時間を取り入れた。時には同じ間違いをすることで自分と友人の弱点を知り、新たな学びにつながったという学生が増えた。

教育（つづき）		
2022 年 4 月～2023 年 3 月（つづき）		
授業（つづき）	授業改善のための取組	これまでも WebClass を活用した授業展開を工夫しているが、さらに毎回の授業の振り返りを学生自身が入力し、総括の授業の際に一枚の用紙に印刷し、自身に身に付いた力を可視化する（OPP）資料作成にも取り組んだ。これを行うことで、学生自身が授業のねらいを理解し、どこまで自身の学力が身に付いたかを実感することができた。 また、引き続き WebClass のアンケート機能を利用し、問題演習の際、学生の選択肢をグラフで提示、リアルタイムで変化する回答を速報することで学生が楽しみながら学びを深めることができた。自分と同じように間違った回答をする学生がいること、そしてすぐに修正をすることで学習効果の向上を図ることができた。 留学生や他学部の学生と交流する場が激減し、英語を話す機会や友達作りの機会が奪われた学生に対し、オンライン交流会やコンテスト等の参加を促した。国際交流センターが発行するニューズレターを積極的に学生に紹介し、新たなチャレンジに参加するきっかけをつくった。
ゼミ	ゼミ活動 （卒業演習） （修了研究）	学生自身が自ら課題を見つけ、探求したいと考えるテーマで研究を進められるよう支援している。学生の自主性を重んじることを大切にゼミ活動を行っている。自ら興味のあるテーマを見つけるために、様々な経験ができるような活動を多く計画し、それぞれの研究や活動の課題、実習での学びを発表する場を多く設け、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を上げているための工夫をしている。 また、国際交流活動にも力を入れ、学部、学科を超えた交流や留学生との交流、イベントでの様々な日本文化の紹介に努めている。2022 年度は、学内の七夕の行事に合わせ、日本文化や山梨にまつわる雑学を問うクイズ大会を開催し、多くの留学生が参加するイベントとなった。また、新型コロナ対策をとりながら、食物栄養科鈴木睦代ゼミと合同で iCLA（山梨学院大学国際リベラルアーツ学部：通称「International College of Liberal Arts」）言語学習センター LAC（Language Acquisition Center）での茶道体験イベントに参加し、外国人留学生らと交流した。

教育（つづき）		
2022 年 4 月～2023 年 3 月（つづき）		
ゼミ（つづき）	卒業レポート・ 修了研究テーマ	・昭和ママ vs 平成、令和ママ ーそれぞれの時代の子育て観の違いについてー ・責任実習で大切なこと ー反省点から振り返る改善点ー ・陸上競技におけるアフリカ系選手の活躍 ・子どもの偏食についての一考察 ・映画「子宮に沈める」に描かれた虐待 ー児童虐待の現状と課題ー ・子どもと動画についての一考察 ・「少年ジャンプ」の魅力を解剖する ・美意識と自己肯定感の関連性について ・コロナ禍で保育を行っていく上での課題 ・障がいのある方々との交流を通し学んだこと ・アニメ「クレヨンしんちゃんの魅力について」 ・多くの人が満足する演劇とは
課外活動		学友会顧問として、顧問会議の運営や執行部会議、学友会例会の運営サポートを行っている。4月の新入生歓迎会の企画・運営やクラブ勧誘ポスター掲示を主導し、新規クラブ立ち上げの支援などにも積極的にかかわっている。2022 年度には、3 年ぶりに開催された樹徳祭（学園祭）では、樹徳祭実行委員会と学友会をつなぐ役割を果たした。短期大学からは多くの団体が参加し、活気ある学園祭となった。 短期大学芸能部顧問として学生の音楽活動を支援している。学部と合同で行う活動が多いので、短期大学生と学部生の橋渡しの役割も担っている。また、クラブ紹介等のイベントで部が所有する音楽機材を提供することで学友会の活動をサポートしている。 演劇部門の顧問兼コーチとして、学生の演技指導も行っている。2022 年度は自主公演や食育イベントでの出張公演を行い、好評を得た。 古典芸能部顧問として、伝統芸能を学ぶ学生の支援にも力を入れている。外国人留学生と交流する機会の少ない短期大学生に、古典芸能を通して外国人留学生と関わる機会を多く設けている。2022 年度は、能舞台で行われた発表会で外国人留学生の支援をした。

教育（つづき）	
2023 年 3 月以前	
主な教育業績	・ 2022 年度 「みんなの地域食堂」において、保育現場などで栄養士として働いている方々に、子どもを対象とした食育活動「食育ロケット」を紹介した。 ・ 2021 年度 「山梨の食材で、寒さに負けないからだづくり」において、小学生を対象とした朗読劇「はだかの王さま」を上演した。 ・ 2021 年度 アルテア子ども館にて、未就学児を対象としたクリスマス朗読劇「くるみわり人形」を上演した。 ・ 2020 年度 卒業演習Ⅱの一環として、ゼミ生がクリスマス・トリップという異文化紹介イベントを実施した。 ・ 2019 年度 卒業演習Ⅰでゼミ生が学院小学校トワイライトスクールにおいて朗読会を行った。 ・ 2019 年度 卒業演習Ⅰでゼミ生が iCLA（山梨学院大学国際リベラルアーツ学部：通称「International College of Liberal Arts」）言語学習センター LAC（Language Acquisition Center）の国際交流イベントにおいて日本文化紹介「着物の文化体験講座」と「折り紙体験講座」を行った。また、食物栄養科の日本食紹介のサポートを行った。 ・ 2017 年度 卒業演習Ⅱでゼミ生が留学生に向けた日本昔話の人形劇を上演した。 ・ 2017 年度 卒業演習Ⅰでゼミ生が総合図書館において幼稚園児に向けた絵本の読み聞かせイベントを行った。 ・ 2006 年度～2016 年度 保育科オペレッタ上演の脚本、演出指導を行った。2013 年度には、舞台制作の様子がテレビ局の取材を受け、放送された。

研究		
2022 年 4 月～2023 年 3 月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
—		
2022 年 3 月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） 英語を「聞く力」「話す力」の向上を目指した授業実践（第 2 報）－英語特有の発音「l と r の違い」に注目して－ （単著）	2022 年 3 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 42 巻
（学術論文） コロナ禍における子ども食堂の課題－文献調査から見えてくる状況と問題点－ （共著）	2022 年 3 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 42 巻
（学術論文） 小学校英語における「聞く」・「話す」ことから「読む」・「書く」ことへの展開 －複数の領域をつなげる“コミュニケーション”に注目して－ （単著）	2021 年 3 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 41 巻
（学術論文） 英語を「聞く力」「話す力」の向上を目指した授業実践（第 1 報）－英語特有の発音“th[θ]”獲得の試み－ （単著）	2021 年 3 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 41 巻
（学術論文） 小学校の英語教育に関する教育方法論的考察－A 小学校の授業観察と教諭インタビューから－ （共著）	2021 年 3 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 41 巻
（学術論文） テレビ番組を活用した英語授業の展開 第 2 報 －食育番組をリスニング素材として使用した授業実践をもとに－ （単著）	2019 年 3 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 39 巻

研究		
2022 年 4 月～2023 年 3 月（つづき）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） テレビ番組を活用した英語授業の展開 第 1 報 ―料理番組をリスニング素材として使用した授業実践をもとに― （単著）	2018 年 2 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 38 巻
（その他：研究発表） 観客としての子どもの反応についての一考察 （単著）	2016 年 5 月	日本保育学会第 69 回大会
（その他：研究発表） 子どものための舞台制作―脚本作りを通した学び― （単著）	2012 年 5 月	日本保育学会第 65 回大会
（その他：翻訳） 「日本料理と山梨県の郷土料理」 （単著）	2010 年 3 月	山梨学院短期大学食物栄養科

社会貢献 産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等
2022 年 4 月～2023 年 3 月
・ 山梨県子どもの夏休み期間の生活リズム改善作戦ー県産食材を使った食育と食支援による地域活性化ー（地域連携事業支援プロジェクト）に参加（2020～現在に至る） ・ FM 甲府子育て支援番組ディレクター（1997～現在に至る） ・ 大学コンソーシアムやまなし主催やまなし留学生スピーチコンテスト実行委員（2011～現在に至る） ・ 山梨学院生涯学習センター主催（2021 より山梨学院総合図書館主催）日本文化ワークショップコーディネーター（2018～現在に至る） ・ 山梨学院 ICC（Intercultural Center）評議委員（2017～現在に至る） ・ FM 甲府生涯学習の時間 聞き手（2009～2020） ・ 山梨学院生涯学習センター主催ワイン講座コーディネーター（2011～2020） ・ 山梨学院生涯学習センター主催英語ワークショップコーディネーター（2011～2020） ・ FM 甲府ラジオ番組「生涯学習の時間」聞き手（2009～2020） ・ 山梨学院生涯学習センター紀要編集委員（2015～2020） ・ 山梨学院生涯学習センター・山梨学院国際交流センター主催英語スピーチコンテスト審査員（2010～2020）
2022 年 3 月以前（主なもの）
・ 大学コンソーシアムやまなし主催「山梨県大学ガイダンスセミナー」実施委員（2017～2019） ・ 大学コンソーシアムやまなし主催「学生イニシアティブ事業」審査員（2016～2019） ・ 山梨学院生涯学習センター主催「やまなし学研究」コーディネーター（2018） ・ 山梨学院大学文化交流センター・山梨学院生涯学習センター主催「日本語スピーチコンテスト」審査員（2016） ・ 大学コンソーシアムやまなし・山梨学院生涯学習センター主催「県民コミュニティーカレッジ」コーディネーター（2013）
受賞 ※個人、所属団体
山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞社会活動部門受賞（学友会執行部）（2022） 山梨学院学生チャレンジ制度採択（竹中ゼミナール「七タクイズチャレンジ」）（2022） 山梨学院学生チャレンジ制度採択（学友会執行部「おはなしかい」）（2022） 山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞社会活動部門受賞（竹中ゼミナール）（2020） 山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞社会活動部門受賞（竹中ゼミナール）（2020） 山梨学院学生チャレンジ制度採択（鈴木・竹中ゼミナール有志）（2019） 農林水産省 第3回食育活動表彰「教育関係者・事業者部門消費安全局長賞（2019） 山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞社会活動部門受賞（竹中ゼミナール）（2018）